

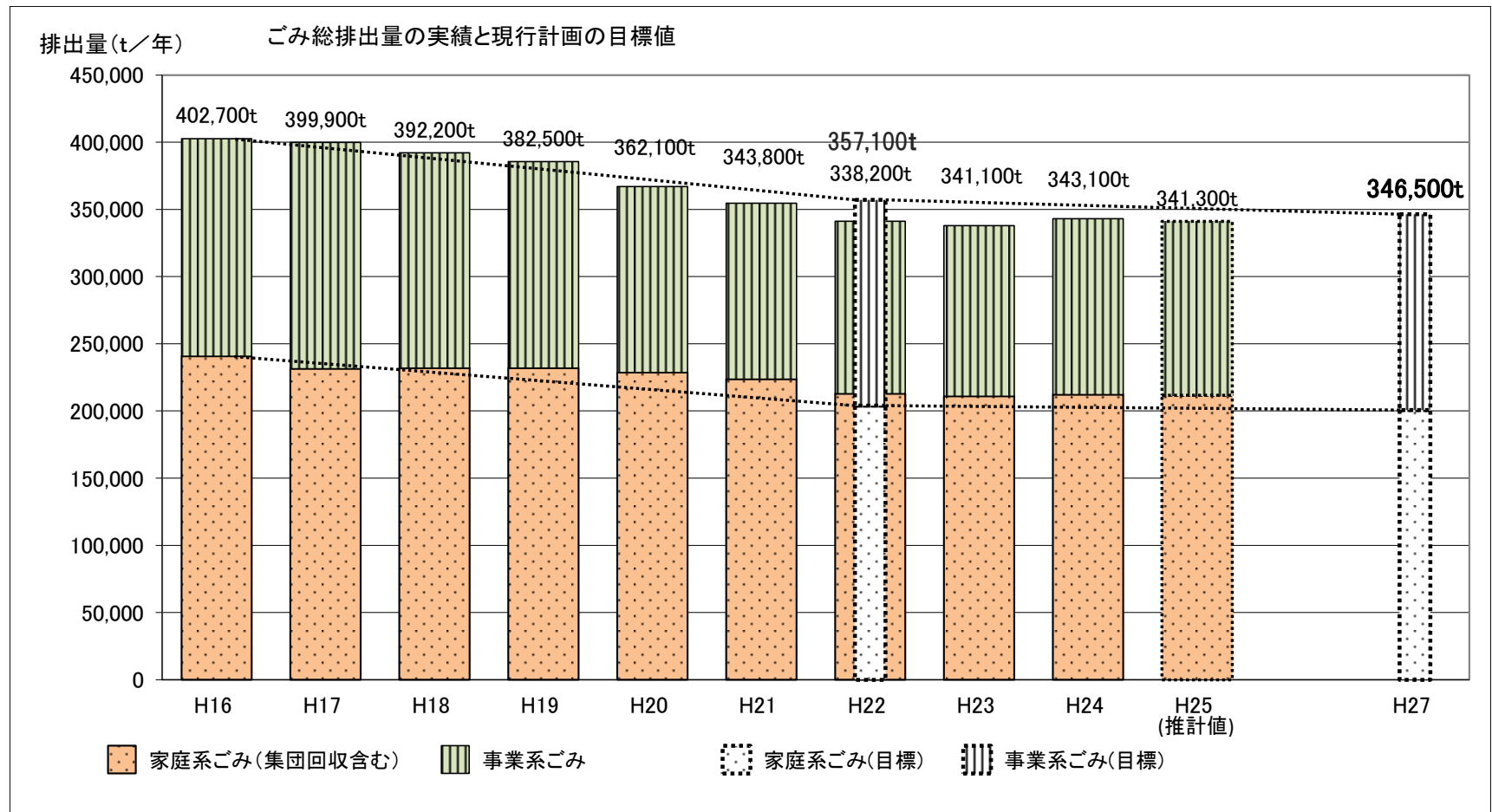
(1) 現計画の進捗状況と課題点

① ごみ総排出量等の推移と目標値との対比

<目次>

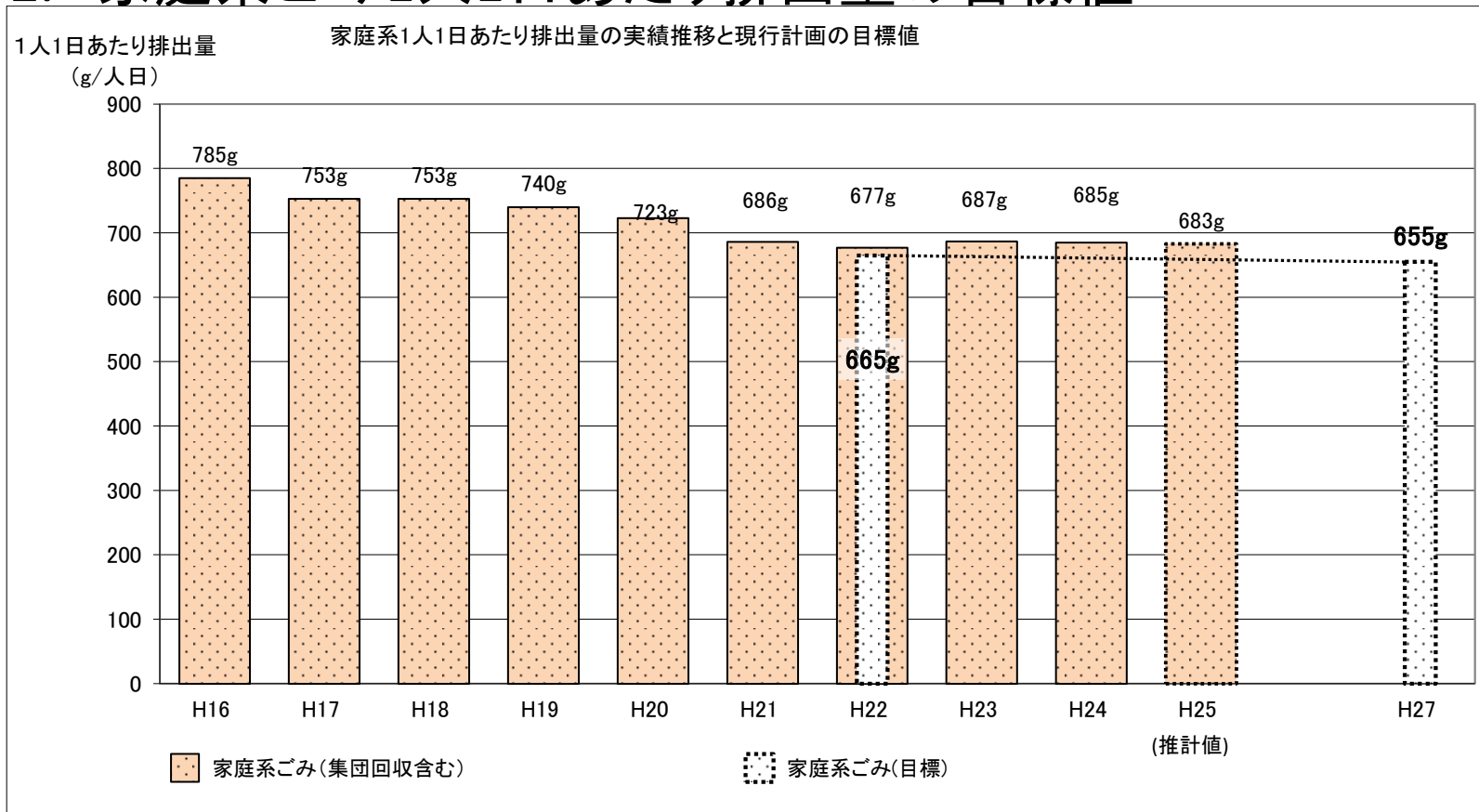
1.ごみ総排出量の目標値	2
2.家庭系ごみ1人1日あたり排出量の目標値	3
3.事業系ごみ1日あたり排出量の目標値	4
4.リサイクル率の目標値	5
5.最終処分量の目標値	6
6.清掃工場搬入量	7

1. ごみ総排出量の目標値



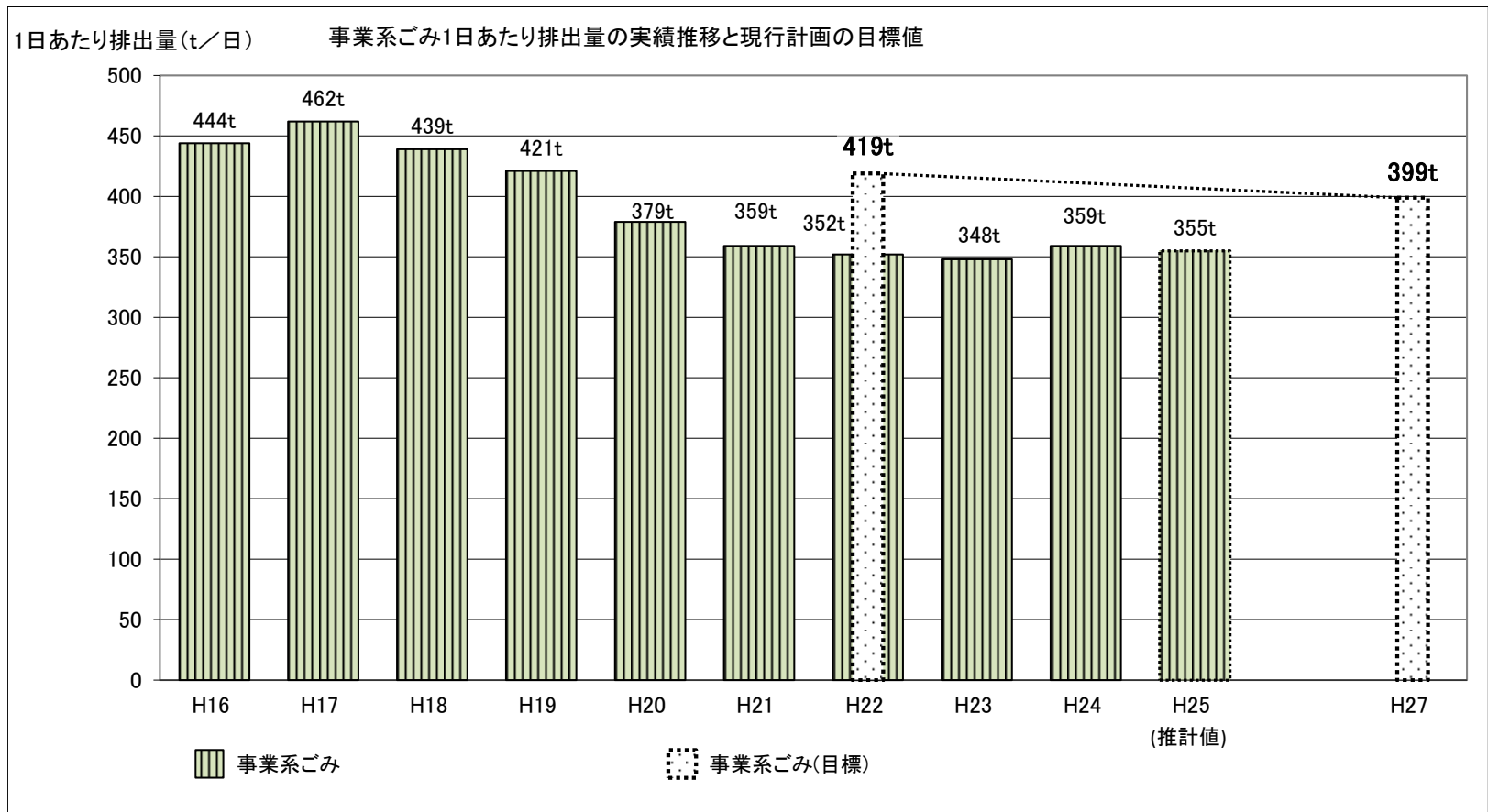
1. 傾向について ⇒ H16年度から継続的な減少傾向後、H22年度以降横ばい。
 H19～21年度(−38,700)の減少幅は、H17～19年度の減少量(−17,400t)の約2倍。
2. H24年度ではH27年度目標346,500tを前倒しで達成している(−3,400t)。
3. H25年度について ⇒ 横ばいが継続する見込み(推計値)。
4. 社会経済情勢の影響を受けやすく、安定的で効果的な減量化・資源化施策を講じる必要がある。

2. 家庭系ごみ1人1日あたり排出量の目標値



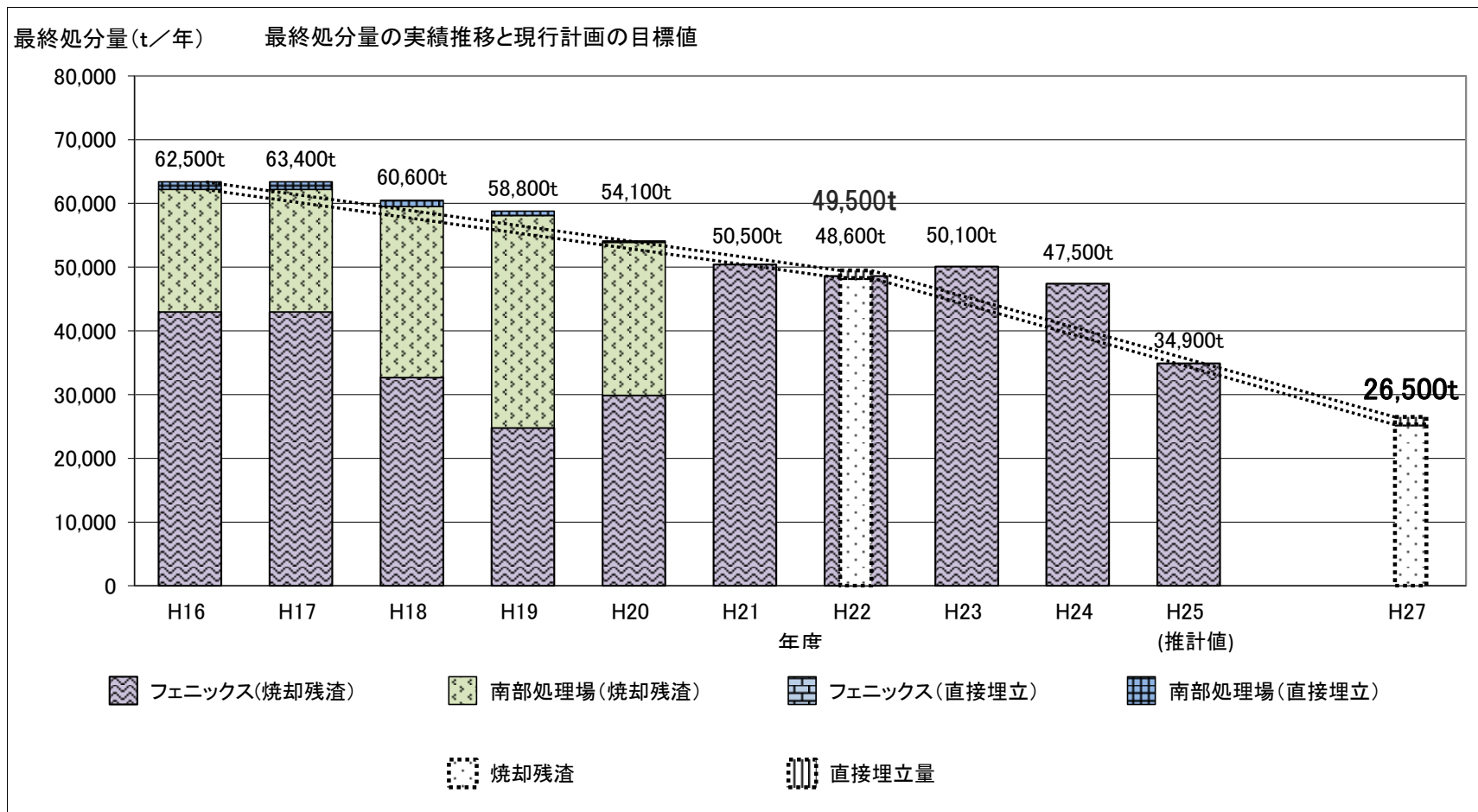
- 1.1人1日あたり排出量はH16～22年度までに108g/人日減少(H22年度:677g/人日)しているものの、中間目標であったー120g/人日減(H22年度665g/人日)には至っていない。
- 2.H22～24年度の1人1日あたり排出量は8g/人日増加しており、H27年度の目標値655g/人日より30g/人日多い。
- 3.平成22年度以降は横ばい傾向でH25年度の推計値を見ても横ばいは継続すると思われる。
- 4.家庭系の1人あたりの排出抑制が進んでいないので排出抑制に対する取り組みを強化しなくてはならない。

3. 事業系ごみ1日あたり排出量の目標値



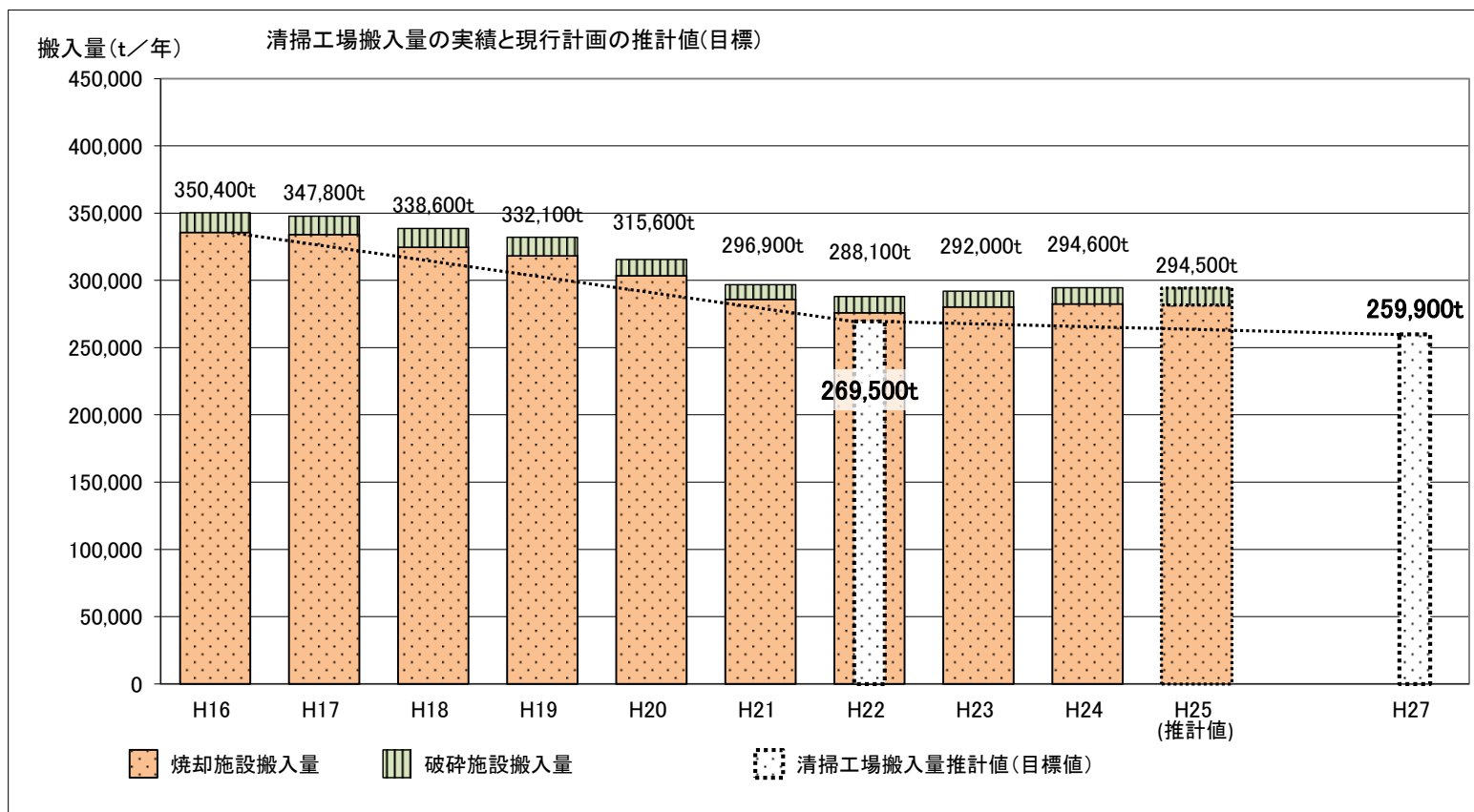
1. 1日あたり排出量はH17年度に増加したものの、H18～23年度まで大幅に減少し、H22年度は352t/日と中間目標であった419t/日を達成。(－67t/日)
2. H24年度には微増しているが、H27年度の目標値399t/日より40t/日少ない。
3. H22年度以降はH25年度の推計値を見ても横ばい傾向になる見込み。
4. 事業者の発生抑制、資源化の取り組みも考えられるが、社会経済情勢の影響も大きいと考えられる。
5. 事業者の潜在的な排出量が推測され、経済動向によっては増加の可能性もある。

5. 最終処分量の目標値



- 1.H23年度の微増を除き、H16年度(62,500t/年)からH24年度(47,500t/年)まで減少。(－15,000t)
- 2.H22年度中間目標(49,500t)時点では目標を達成している。
- 3.H25年度は臨海工場の熔融処理方式が焼却残渣の減量に寄与し、12,600t/年削減見込み。
- 4.順調に推移しているが最終目標達成には、発生抑制などの各種取り組みを積極的に進めなければならない。

6. 清掃工場搬入量



1.傾向について ⇒ H16年度から継続的な減少。H22年度以降横ばい

H19～21年度(−35,200t)の減少幅は、H17～19年度の減少量(−15,700t)の約2倍。

2.H22年度中間目標値(269,500t)と実績について ⇒ 同年度実績288,100tで目標を達成できていない。(＋18,600t)、H22～23年度(＋3,900t)、H23～24年度(＋2,600t)と微増しており、H24年度時点ではH27年度目標259,900tを上回っている(＋34,700t)。

3.H25年度について ⇒ 横ばいが継続する見込み(推計値)